

薩摩硫黄島の火山活動解説資料（令和元年 11 月）

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

薩摩硫黄島の硫黄岳で、2日17時35分に噴火が発生しました。今後も小規模な噴火が発生する可能性があることから、同日17時50分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）からレベル2（火口周辺規制）に引き上げました。

その後、噴火は発生しておらず、火山性地震や地殻変動に特段の変化はありませんが、夜間に火映が観測され、時折噴煙が高くなるなど、長期的には熱活動が高まった状態が続いています。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないください。

活動概況

- ・噴煙など表面現象の状況（図1～6、図7- ）

硫黄岳山頂火口で、11月2日17時35分に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上1,000mをわずかに超える程度まで上がりました。この噴火に伴う火砕流や噴石は観測されませんでした。薩摩硫黄島で噴火が発生したのは2013年6月5日以来です。

11月3日に第十管区海上保安本部の協力により実施した上空からの観測や、11月5日から7日に実施した現地調査では、噴煙の状況や地熱域の分布などに特段の変化は認められませんでした。

11月は、白色の噴煙が最高で火口縁上1,300m（10月：1,000m）まで上がりました。また、高感度の監視カメラで微弱な火映を時々観測しました。

- ・地震や微動の発生状況（図7- 、図8）

火山性地震は少ない状態で経過しました。震源が求まった火山性地震は2回（10月：1回）で、硫黄岳火口直下のごく浅い所でした。

火山性微動は2018年3月17日以降、観測されていません。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年12月分）は令和2年1月14日に発表する予定です。本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び三島村のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

・火山ガスの状況(図7-)

6日に実施した現地調査では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、1日あたり1,300トンと、やや多い状態でした。

・地殻変動の状況(図9、図10)

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

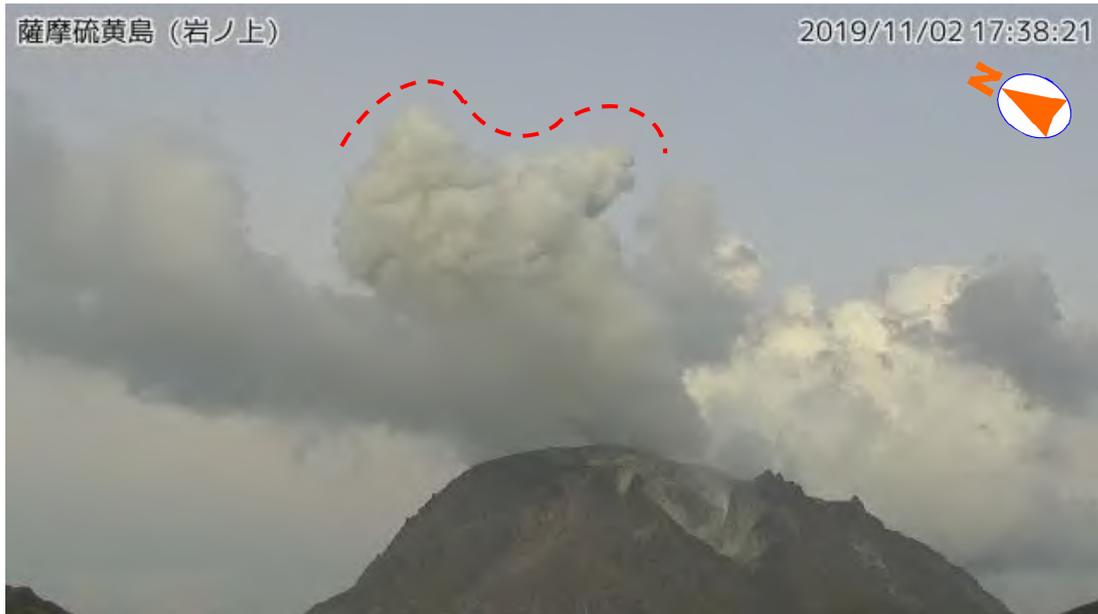


図1 薩摩硫黄島 噴火の状況(11月2日 岩ノ上監視カメラによる)

17時35分の噴火により、灰白色の噴煙(赤点線)が火口縁上1,000mをわずかに超える程度まで上がりました。



図2 薩摩硫黄島 火映の状況(11月30日、岩ノ上監視カメラによる)

高感度の監視カメラで微弱な火映を時々観測しました。



図3 薩摩硫黄島 図4の観測位置及び撮影方向



図4 薩摩硫黄島 硫黄岳山頂火口及び周辺の状況

硫黄岳山頂火口から白色の噴煙が火口縁上約300m上がるのを確認しましたが、周辺に火山灰などの噴火の明瞭な痕跡は認められませんでした。硫黄岳周辺の海岸付近では、火山活動に伴うと考えられる海水の変色が引き続き確認されました。

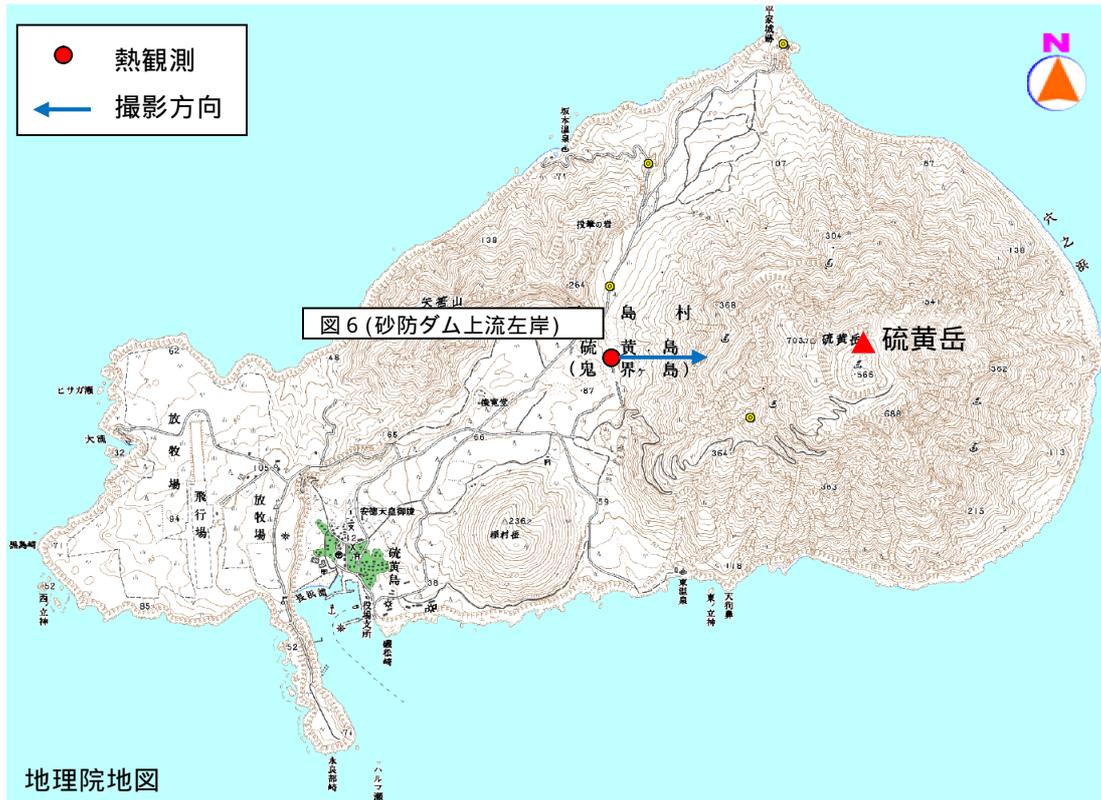


図5 薩摩硫黄島 図6の観測位置及び撮影方向

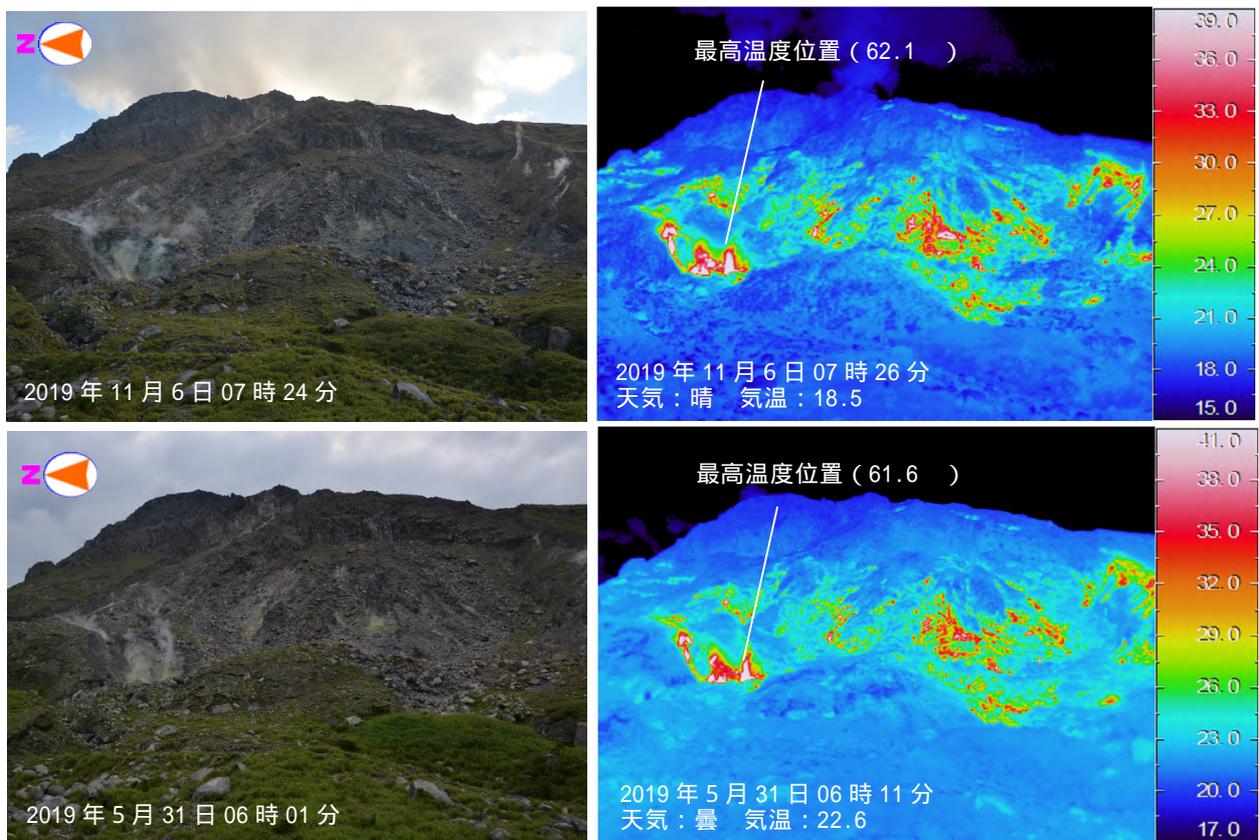


図6 薩摩硫黄島 硫黄岳西側の状況（砂防ダム上流左岸から観測）
地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。

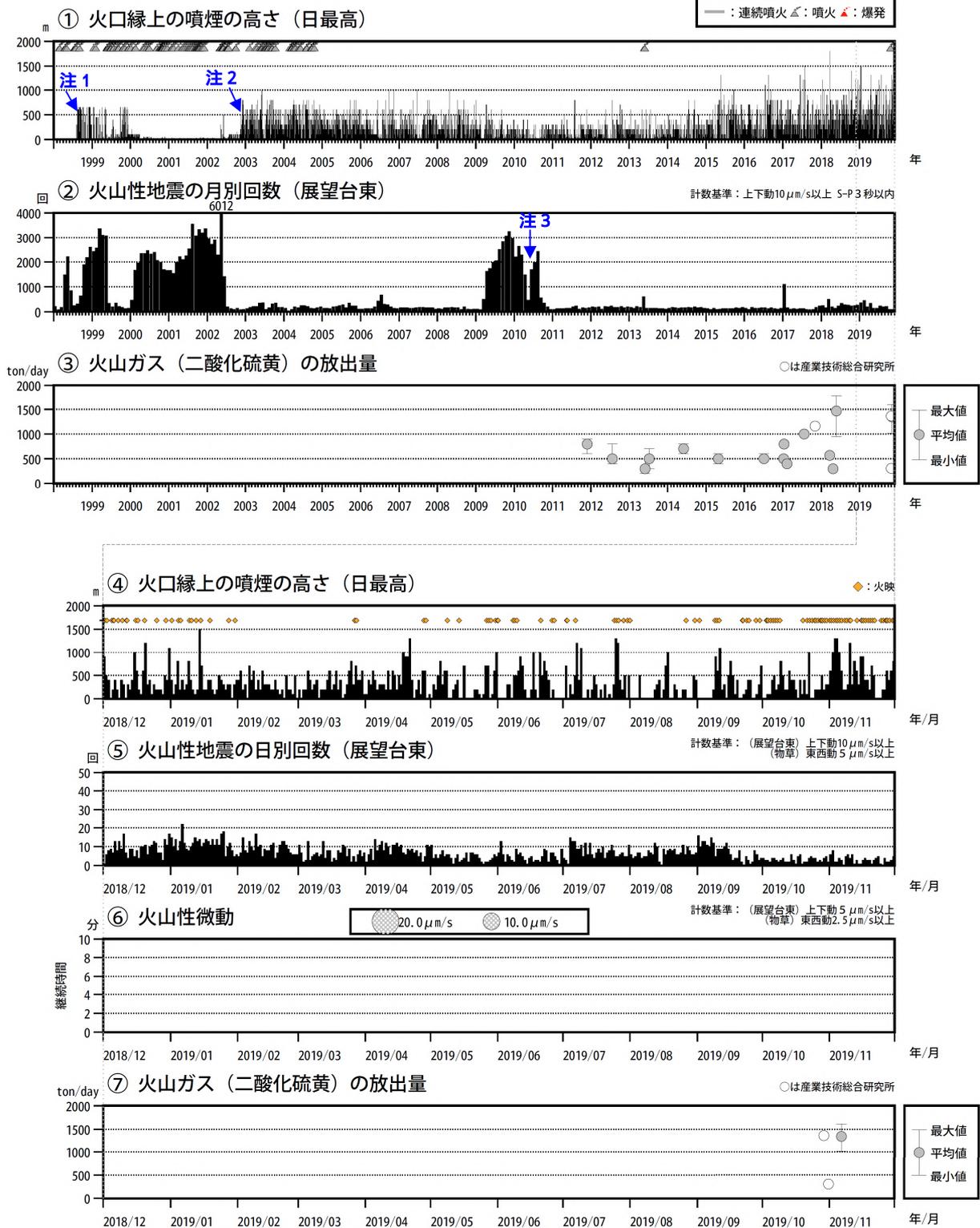


図7 薩摩硫黄島 火山活動経過図（1998年1月～2019年11月）

< 11月の状況 >

- ・硫黄岳山頂火口で、11月2日17時35分に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上1,000mをわずかに超える程度まで上がりました。11月は白色の噴煙が火口縁上1,300m（10月：1,000m）まで上がりました。
- ・硫黄岳山頂火口では、高感度の監視カメラで微弱な火映を時々観測しました。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しており、月回数は95回（10月：99回）でした。
- ・火山性微動は2018年3月17日以降、観測されていません。
- ・6日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり1,300トンと、やや多い状態でした。

注1 1998年8月1日：三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。

注2 2002年11月16日：気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。

注3 2010年1月から7月にかけて、地震計障害のため火山性地震及び火山性微動の回数が不明の期間があります。

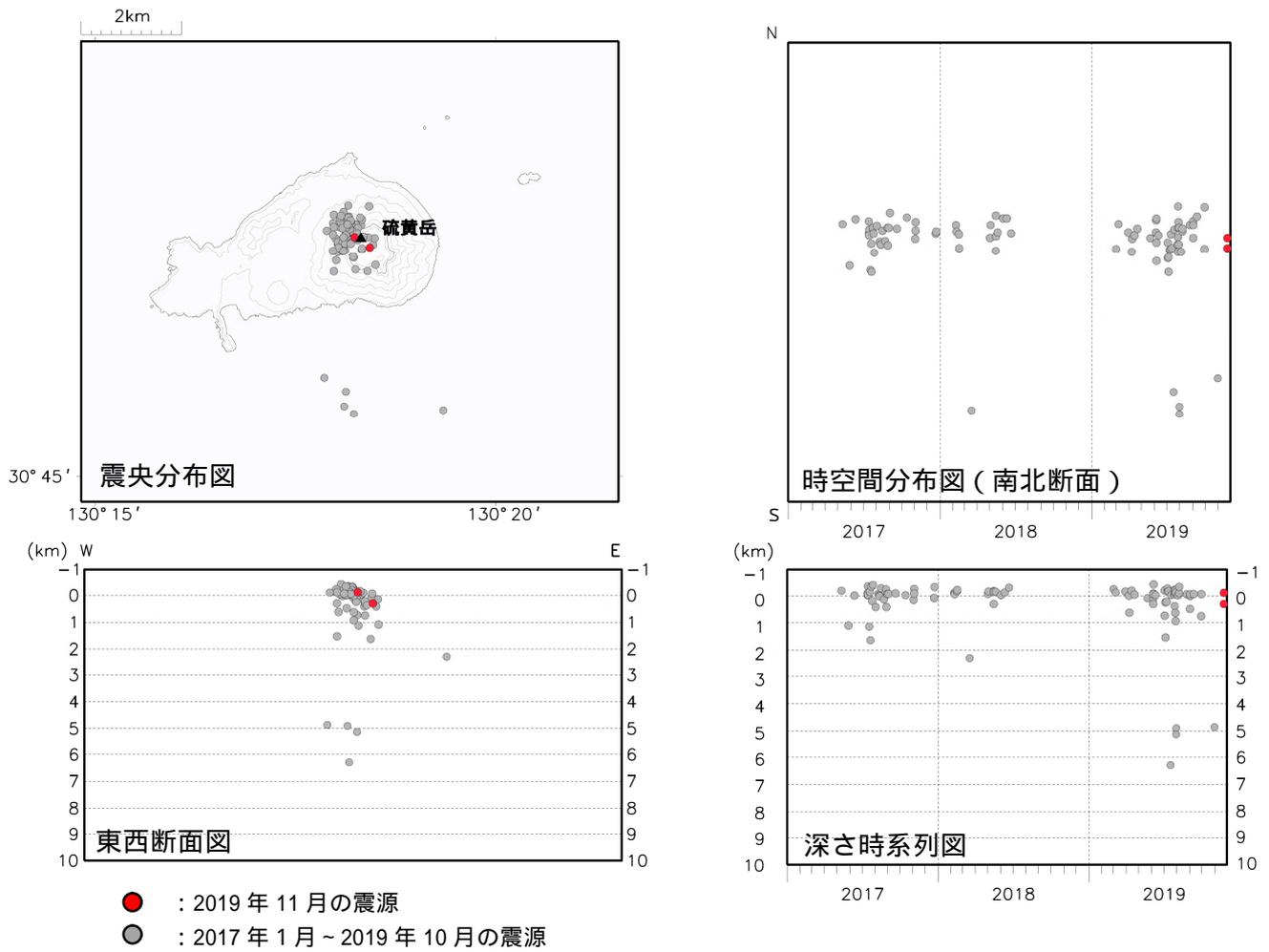


図8 薩摩硫黄島 火山性地震の震源分布図（2017年1月～2019年11月）

< 11月の状況 >

震源が求まった火山性地震は2回で、硫黄岳火口直下のごく浅い所でした。

地震計障害のため、2018年6月28日～2019年2月28日にかけては震源が求まっていません。

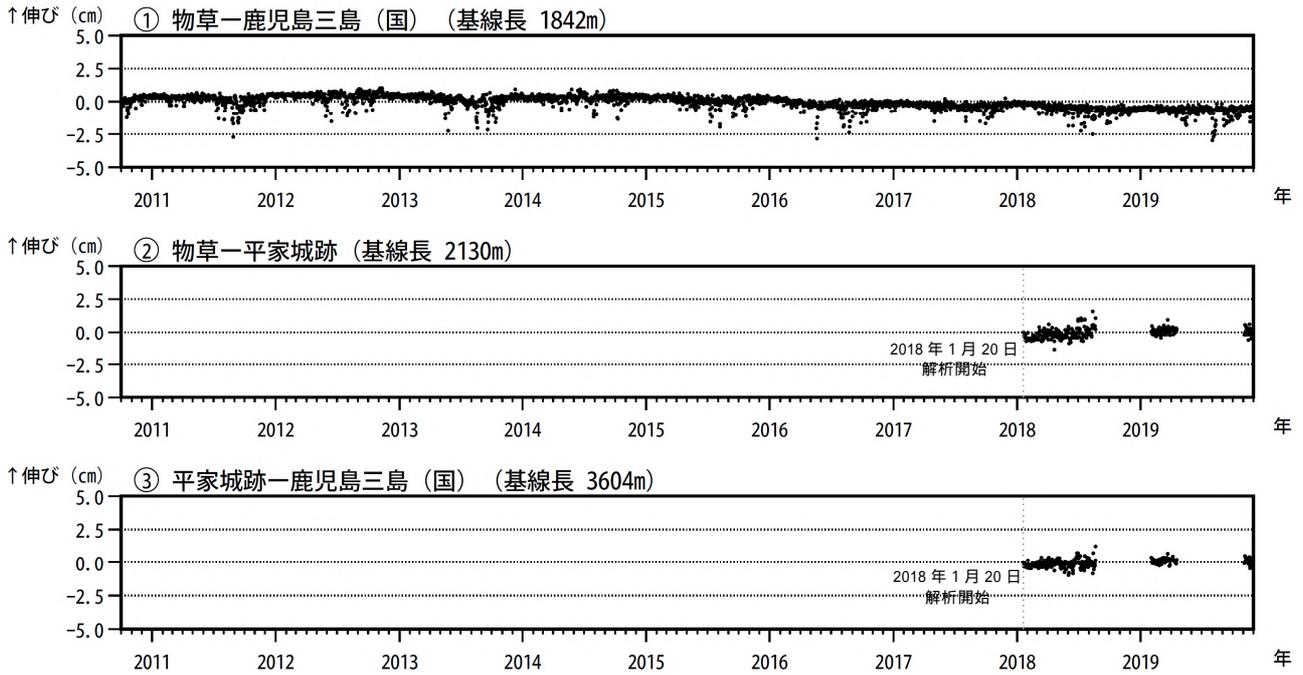


図9 薩摩硫黄島 GNSS連続観測による基線長変化（2010年10月～2019年11月）

火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

この基線は図10の～に対応しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

（国）：国土地理院

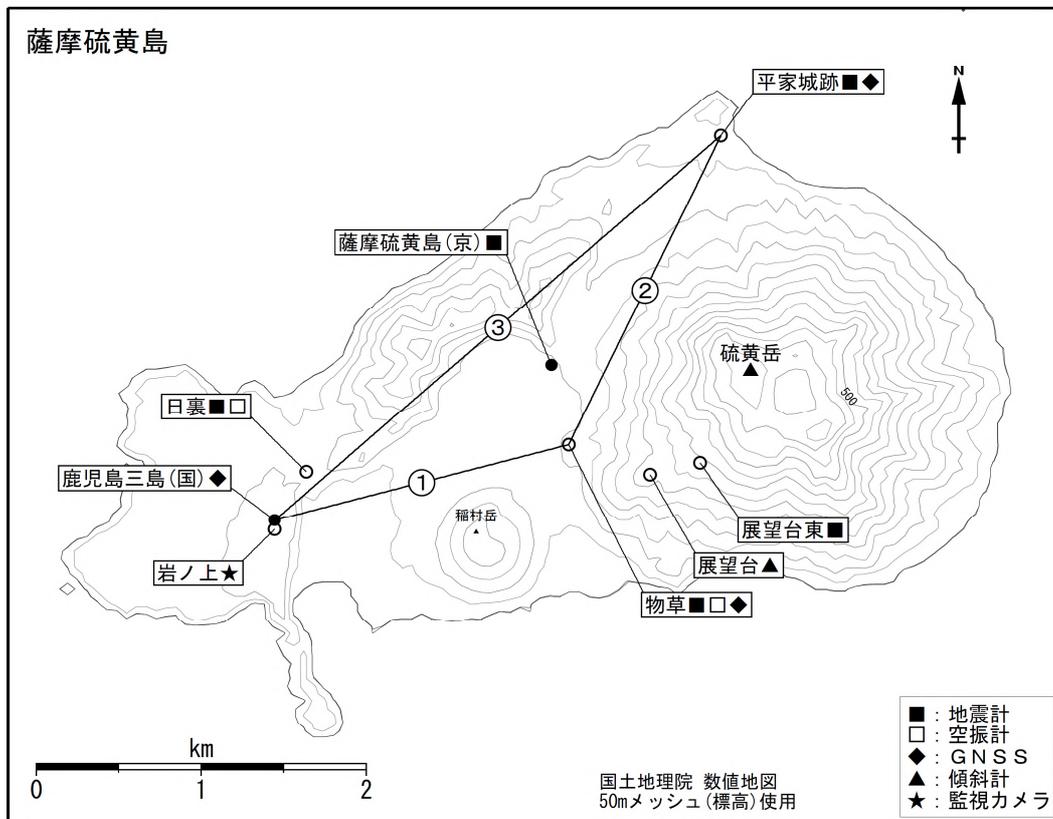


図10 薩摩硫黄島 観測点配置図

小さな白丸()は気象庁、小さな黒丸()は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院、（京）：京都大学